

季刊マーメイド

逗子市立図書館報

第11号

2016年2月1日発行

逗子市立図書館

逗子市逗子 4-2-10

046(871)5998

<https://www.library.city.zushi.lg.jp>

逗子の小さな化学工場

味の素工場(1909～1915)



かわらそすい
藤原楚水
もしおぐさ
随筆『藻塩草』

東洋美術史、中国書道史の研究・執筆を行っていた藤原楚水は、大正元年「田越村」の頃からの逗子に住み、平成2年に亡くなるまでの約80年間、逗子で暮らしました。逗子市立図書館には楚水本人から寄贈された、書道の資料を中心とした「藤原楚水文庫」があります。

楚水の随筆『藻塩草』は昭和48年、94歳の時に上梓されました。大正から昭和にかけての逗子・葉山の変遷が楚水の経験を通して語られ、今では忘れ去られた逗子の風俗、人、景色が生き生きと描かれた貴重な文献です。その中の「藻塩たく煙」の一文に、明治期の逗子の

浜辺では、塩ではなく沃度（ヨード）を取るために海藻を燃やし、その商売をしていたのが後年「味の素」の製造・販売で有名となった鈴木三郎助の先代であったとの記述があります。



沃度（ヨード）の材料
藪布（カジメ）
『逗子の自然』より

よらど
鈴木製薬所と沃度事業

図書館2階に所蔵している『味をたがやすー味の素八十年史ー』そこには「味の素」という旨み調味料が逗子・葉山の地でいかに製造されるに至ったかが詳しく記されています。

葉山の鈴木家は慶応2年酒類や穀物を販売する「瀧屋」を開業し財を成します。ところが初代三郎助は腸チフスで急死、残された妻のナカは家業を守り三人の子供たちを育てました。

時は移り明治20年頃、二代三郎助が手を出した米相場の損失により困窮した「瀧屋」鈴木家は、避暑避寒の客に間貸しなどもしながら糊口を凌いでいたようです。そんな中、間貸しの客だった大日本製薬会社の技師村田春齢は、海岸に大量に打ち上げられる搦布（カジメ）から沃度（ヨード）を造ることをナカにすすめます。村田の指導のもと沃度（ヨード）製造に乗り出した鈴木家は、明治26年「鈴木製薬所」として海藻原料の沃度

（ヨード）事業及び軍事用硝石製造など化学工場として再出発します。場所は今の葉山マリーナのあたりでした。

明治38年鈴木三郎助は、葉山に加え逗子に工場を建設し、事業の拡大を図ります（現在の逗子二丁目付近、田越川をはさんだ延命寺の対岸あたり）。楚水が見た浜辺で海藻を焼く風景はこの頃から始まったと考えられます。

池田菊苗 うま味の発明

理学博士池田菊苗は、明治41年7月25日「グルタミン酸塩を主成分とする調味料製造法」の特許を取得します。国内で32件、海外で17件の特許を取得した菊苗の最初の特許が、いわゆるうま味成分の発見でした。発明の動機が夫人の購入した昆布であったということや、留学先ドイツからの帰途に立ち寄ったロンドンでの夏目漱石との関係、そしてもちろん新調味料についてなど、興味深いエピソードが『化学者 池田菊苗』（廣田銅藏著）に詳しく記されています。この新たな調味料の発見に興味を持ち、池田菊苗の研究に出資して製造販売に乗り出したのが、鈴木



1910年頃の味の素 グルタミン酸
『味の素グループの百年』より

は苦情が続出していました。これらの訴えに対し、実害を調査し賠償を行いました。その後は工場の操業停止や、移転の要望が強くなっています。

そのような状況下、逗子工場では実験を重ね、塩酸ガスの発生しない「硫酸法」を開発し製造特許を取得します。

副産物の再利用

もう一つの問題は、澱粉の廃液をどう処理するのかということでした。川や海に流せば公害となる廃棄物を活かさないだろうか。苦心の末、一つのアイデアがうまれていきます。

当時紡績工場では「味の素」とは反対に、綿布の糊付け用として

小麦粉から澱粉を抽出し、副産物のたんぱく質（麩素）を廃棄していました。そこに目をつけ、鐘淵紡績などに向けて澱粉の販売をもちかけたのです。難交渉の末、大正元年9月、鐘淵紡績社兵庫工場へ小麦澱粉が初出荷されました。

廃棄物による公害問題を解消し、商品の原料単価を下げるというまさに一石二鳥のアイデアもまた逗子の工場での苦い経験から生まれたものだったといえます。

大正期に入り「味の素」の売れ行きが増すにつれ、逗子工場の生産設備に限界が訪れます。

大正4年川崎に新工場が開設されると、逗子工場は閉鎖され、その歴史を閉じることとなりました。

主な参考資料

- 『味の素株式会社社史 1』味の素株式会社社史編纂室編・刊 1971 Z 58.A 7 1
『味をたがやすー味の素八十年史ー』味の素株式会社編・刊 1990 Z 58.A 7
『味の素グループの百年ー新価値創造と開拓者精神 1909-2009ー』
DNP年史センター編集協力 味の素株式会社 2009 Z 58.A 7
『藻塩草ー炉辺談話ー』藤原楚水著 省心書房 1973 ZF 914.6 7
『鈴木三郎助伝』故鈴木三郎助君伝記編纂会編・刊 1932 Z 28.Z 8
『御浦 [2]』三浦文化研究会編・刊 1995 Z 05.B 2
『化学者池田菊苗ー漱石・旨味・ドイツー』広田綱蔵著 東京化学同人 1994 289.1 1
『明治大正昭和年表ー逗子の三代史ー』手帳の会編・刊 1990 P 213.7 7
『朝日新聞 明治編 194』日本図書センター 2000 071 7 194
『逗子の自然』逗子市教育委員会教育研究所編・刊 2013 P 46 8